

# 自転車利用実態定点調査報告

平成28年 11 月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成 28 年 10 月 26 日  
[午前]8:00~8:50

**調査場所** ・ 都立〇〇高校(共学)  
**概要** ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			車種	階次	危険走行実態			
	車道	歩道	その他			危険走行	危険走行	危険走行	危険走行
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									

調査日時 : 平成 年 月 日
天気 :
調査時間 :

<調査票>

## [コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、6%であり、車道右側走行率は、70%・車道中央走行率は、24%の結果であった。

◎危険運転行為は、並列運転(49件)・片手運転(24件)・ハンドルに荷物(10件)・カバン背負い/立ち漕ぎ(各7件)・肩に荷物(5件)・過積載(3件)・ギター背負い(1件)の順となっている。

## 【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、圧倒的に右側通行者(全体の7割)が多く、次いで中央通行者と続き、左側通行者は、全体の1割未満であり、ルール・マナーの遵守率が、低い。

なお、危険運転行為の中では、並走運転が、全体(106件)の約46%(49件)/片手運転が23%(24件)を占めていた。

事故を招きやすいため、行わないことが望ましい

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。

なお、校門直前での左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数800人)の5割程度である。

校内には、自転車駐輪場が複数整備(総収容台数400台)されていた。

なお、自転車駐輪場は、学年毎に区分けされていた。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、正門の1箇所だけであった。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、自転車通学生生に対して駐輪指導(ヘッドフォンの着用の禁止・傘差し運転の禁止等)を実施している。

また、交通安全啓発の一環として、本年7月に全校生徒を対象に交通安全教室(地元警察主催)を開催した経緯がある。



自転車駐輪場(全景)



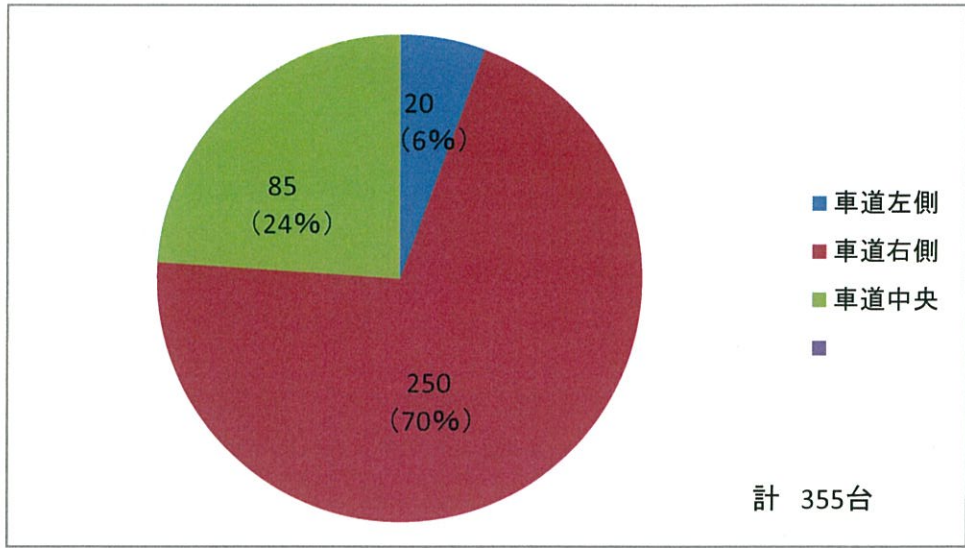
同左拡大(2 学年用)



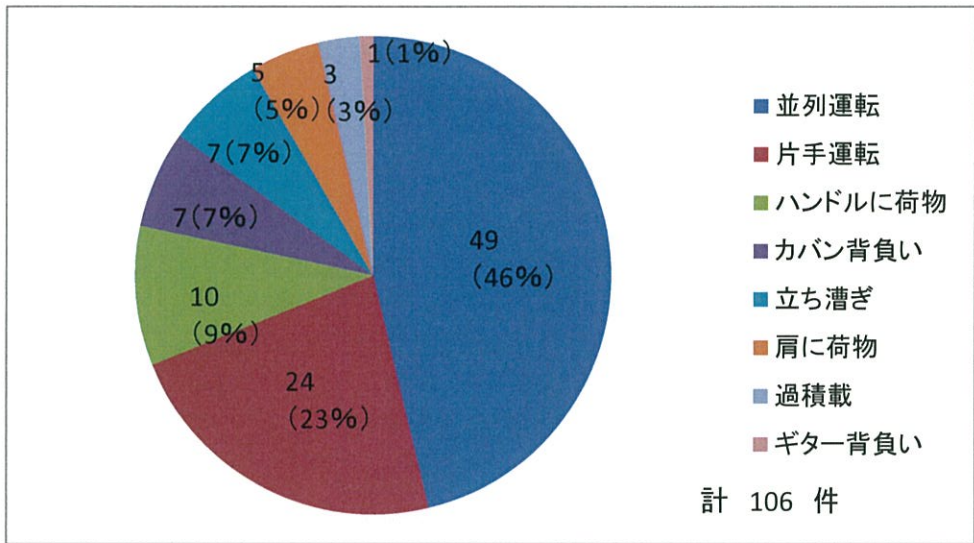
同上拡大(3 学年用)



自転車駐輪場(1 学年用)



走行空間



危険運転行為